

(様式5)

調査報告書

外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	<u>11</u>
1. 理念の共有		2
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		3
5. 人材の育成と支援		2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援		9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		<u>30</u>

訪問調査日	平成20年 11月 5日
調査実施の時間	開始 10時 00分 ~ 終了 14時 15分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム まいづる (鹿児島県)
-------------------	--------------------------

評価調査員の氏名	氏名 <u>中村 朋美</u>
	氏名 <u>福留 昭</u>
事業所側対応者	職名 <u>管理者 ・ 計画作成担当</u>
	氏名 <u>岩元 千里 ・ 高三瀨 恵子</u> ヒアリングを行った職員数 3 名

※記入方法

- 「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。
- 「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。

※項目番号について

- 外部評価項目は30項目です。
- 「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。
- 「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。

関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 11月 6日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4670300690号		
法人名	社会福祉法人 舞鶴会		
事業所名	グループホーム まいづる		
所在地	鹿児島県鹿屋市大手町10番地6号 (電話) 0994-52-1666		
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成20年11月5日	評価確定日	平成20年12月13日

【情報提供票より】(平成20年8月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成	15年	4月	1日			
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9	人			
職員数	10人	常勤	2人,	非常勤	8人,	常勤換算	8.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート	造り
	6階建ての	～ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	12,000～15,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	800	円	

(4) 利用者の概要(8月31日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名	
要介護1	3名	要介護2	4名			
要介護3	2名	要介護4				
要介護5						
年齢	平均	80.2歳	最低	56歳	最高	88歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	桜ヶ丘病院・立元内科小児科・つじはた歯科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>当ホームは、市の繁華街に位置し生活に便利な場所にある。地域の催し物など情報収集を密にし、近隣の地域資源を活用するなど積極的に地域住民との交流や外出する機会をつくっている。入居者と職員は、かごしま弁での会話がはずみ、楽しい笑い声が聞こえてくる。職員は、入居者一人ひとりのプライドに配慮し個々人の尊厳ある生活を支援している。日々気付きを話しあい意見を出しあいながら、入居者本位のケアに取り組んでいる。</p>

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>地域密着型サービスとしての理念の見直しの検討に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価の意義を理解し、全職員で一項目ずつ話し合い、運営者とも相談しながら自己評価に取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議では、ホームの現状や取り組み、評価の報告などがされている。地域行事の案内や、避難訓練などについて意見がだされている。意見を活かす取り組みに努めている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>年2回の家族会や運営推進会議・第三者委員など意見を表せる機会がある。家族の訪問時は、傾聴を心がけ意見を出してもらっている。職員の対応について意見などが出され、状況に応じて家族を交え話しあうなど質の向上に努めている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の催しものなどの情報収集を密にし、積極的に参加している。幼稚園児の訪問や学生・フランドンス・音楽療法などのボランティア訪問や通所介護利用者との交流もある。また、地域資源を積極的に利用し、地域住民とふれあうことに努めている。災害時の応援体制は町内会の協力を得られるよう取り組んでいる。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営者・職員・運営推進会議で理念の見直しを検討している。地域密着型サービスとしての役割を理解し、その意味を含め事業所独自の理念「日常生活の時間を大切に、誇りを失うことなく楽しく過ごす」を継続している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の掲示場所を工夫し理念の読み上げやスタッフ会議などを通して、意識付けを図っている。一人ひとりの尊厳を尊重し、地域との交流を図り、日々楽しく生活ができるように実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の催しものなどの情報収集を密にし、積極的に参加している。幼稚園児やボランティアなどの訪問や、通所介護利用者との交流もある。また地域資源を積極的に利用し、地域住民とふれあうことに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、全職員で自己評価に取り組んでいる。外部評価の報告や課題点など職員や運営推進会議などで検討し、質の向上に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、ホームの現状や取り組み、評価の報告などがされている。地域行事の案内や、避難訓練などについて意見が出され、意見を活かす取り組みに努めている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは、細く情報交換をしている。助言を得ながら質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者個々のホーム便りを毎月発行している。近況や健康状態などは、家族の訪問時や電話などで報告している。預かり金は、毎月領収書の送付と残金の報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会・運営推進会議・第三者委員などが意見を表せる機会がある。家族の訪問時は、傾聴を心掛け意見を出してもらっている。職員の対応について意見などが出され、状況に応じて家族を交え話しあうなど質の向上に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職者は少なく、馴染みの関係ができています。職員が代わる場合は、影響をおさえる努力をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画がある。外部研修は資格や経験・希望に応じた研修に参加している。研修報告は報告書や内部研修で情報の共有を図っている。資格習得の応援体制もある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームとは入居者を含めた相互訪問や運営推進会議の出席など、常に情報交換をし共にサービスの質の向上に取り組んでいる。地区のグループホーム連絡協議会にも加入し、職員は研修会などに参加している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族に事前に面会し不安や意向の把握に努めている。またホーム見学を本人にしてもらうなど納得したうえで入居できるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者からかごしま弁や調理方法など学んでいる。また調理の下準備や掃除など入居者の力を発揮する場面を大切にしている。互いにねぎらい感謝しながら共に支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の表情や行動・会話などから思いや意向の把握に努めている。職員同士が連携を図り、思いを引き出す工夫や情報を共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向を把握し、スタッフ会議で話し合いそれぞれの意見を反映させた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎日のケアプラン計画実施表や毎月のスタッフ会議などで、状況確認を行い状況に応じて細かな修正をしている。心身の大きな変化があった場合は、随時、本人・家族・職員などの意見を反映させた新たな介護計画を作成している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の意向や状況に応じて、通院支援や馴染みの場所の訪問・通所介護との交流など柔軟な対応をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	継続した医療支援ができるよう入居前からのかかりつけ医であり、家族と医療機関と連携を図っている。通院は家族対応を基本としているが、状況に応じて通院支援や職員も同行するなど柔軟に対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族には入居時にホームの対応方針の説明をしている。状況に応じ、随時本人・家族・医療機関と話し合っている。		重度化や終末期に向けたホームの方針が分かるように、対応方針などを明記する取り組みが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々のケアやスタッフ会議で意識付けを図っている。職員はかごしま弁で親しみやすく、誇りやプライバシーに配慮した言葉づかいや対応をしている。個人情報の取り扱いも留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるが、本人の意向や状況に応じ、できる限りそれぞれのペースで過ごせるよう柔軟な支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週1回は全員で調理する日を設け、それぞれの力を発揮する場面をつくっている。下ごしらえや台拭き・皿洗いなど共に行い、入居者と職員は懇談し、楽しく食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴日を基本としているが、入居者の意向や状況に応じて柔軟に支援している。無理強いすることなく、ゆっくりと入浴できるよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除・調理下準備・片付けなどの家事やタオル交換・草とりなどの生活歴や力を活かした役割がある。また創作活動・レクリエーション・散歩・買い物・手芸など楽しみごとや気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や体調などに応じて、散歩や買い物・水神様の水汲みなど日常的に外出している。またドライブや外食・地域資源の活用などで積極的に外出し、歩行が困難であっても車椅子などを利用して外出している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないケアを実践している。職員は見守り方法を検討し配慮している。近隣者が理解し、見守ってくれる関係ができています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	会議ではホームの現状や取り組み、評価の報告などがされている。地域行事の案内や、避難訓練などについて意見が出され、意見を活かす取り組みに努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を把握し記録している。栄養バランスに留意し、入居者の希望を取り入れた献立である。刻みやおかゆ食など一人ひとりの状態に応じた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間はソファや椅子の置き方など、居心地よく過ごせるように工夫している。散歩時に摘んだ草花を飾り季節感を取り入れ、音や光にも配慮がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、手芸品やぬいぐるみ・椅子・家族の写真など馴染みの物や好みのもが持ち込まれている。家族にも持ち込みや空間づくりについて相談している。入居者は自分の居室として安心して過ごしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。